

# 県医労連・速報

TEL:088-849-4893 FAX:088 850-7798

e-mail:trbmx804@ybb.ne.jp HP:http://www.geocities.jp/k\_ironen/

発行日:

2007.1.18

発行元:

高知県医労連

## 医師不足解消求め県と交渉 対策室の新設など回答

「医師不足を何とかしてほしい」という悲鳴が地域から聞こえてきます。高知県医労連と高知自治労連は、昨年未連名で「医師不足を解消し地域医療の充実を求める要望書」を橋本知事あてに提出していました。

その要望書に基づく県との話し合いを1月17日に行いました。県医労連の自治体3病院労組をはじめ自治労連の四万十市民病院の仲間も参加。県議や関係の市議、町議、「佐川の医療を守る会」の代表含め16名が参加しました。県側は畠中健康福祉部長、家康医療薬務課長らに対応しました。

その中で県側は、「医師確保の対策室の新設」をはじめて明らかにしました。

### 9260筆の署名を提出

最初に、自治労連、四万十市民病院の看護師の小松さんが、9,260筆の署名を畠中部長に提出。これは、昨年未から両組織で取り組んできたもので、この日は第一次分を提出しました。

続いて、県医労連の田口書記長が要望書の概要を説明し、県側から部長と課長が回答しました。



### 医師不足解消は県の最重要課題

畠中部長は、「県としても医師不足問題は最重視課題と考えている。僻地ではないが、地域の中核的病院で深刻な事態になっている点は認識している。医師の定着を図りたい」「県として地域医療を守っていくことは使命と考えている」と回答。

家康課長は、「来年度から県の奨学金制度を創設する。H20年度から高知大の推薦入試で

10名の地元枠を設ける。教育委員会とも連携し枠が埋まるように努力したい。高知大への地域医療の寄附講座の設置も考えている。県内10の基幹型研修病院の協議をすでに2回行った。共同の事業の検討など研修充実への取り組みを行っている。県外在住の県出身医師の獲得含めてドクターバンクも設置する」と県の計画を説明しました。同時に課長は、「医師が行きたい、働きたい病院作り。理念、ビジョンの明確化が重要」と強調しました。



## とにかく、医師派遣の緊急措置が必要！

交渉団からは、「理念、将来構想の重要性は同じ認識。しかし、今の事態は医師不足で将来構想自体が立たない状況。県としての医師派遣の緊急システムの構築、地域での話し合いの場の設定、マネジメント能力をつけさせるための研修など支援策が必要」「各県設置の医療対策協議会に法的権限（医療法）が与えられるのだから、県として本腰を入れた対応が必要」と強調しました。

部長は、「来年度予算で医師不足の対策室を新設し、専任を配置する」と答弁。これに対して交渉団は、施策の一層の強化を要望し、今後も県医労連、自治労連との話し合いを継続していくことを確認し話し合いを終えました。

## 地域で運動を積み上げ、県との話し合いを継続

両団体では、今日の話し合いを受けて、各病院、地域でも病院や地域医療のあり方について話し合いを持ち、さらに県への要求を具体化していくことを確認しました。

---

県医労連第21回中央委員会

日時 2月3日（土）14：00～

場所 年金病院・健康管理センター

---

この県との話し合いをRKC高知放送、NHK、高知さんさんTVが報道しました。

新聞は、「高知新聞」、「読売新聞」、「朝日新聞」が報道しました。